



教育目標：自立 敬愛 精励

用賀中だよい

ようがの学び舎 舎訓 責任 信頼 誇り
～生徒が主人公である学校、地域と共に歩む学校～

学校だより 1月号
令和7年 1月吉日
ようがの学び舎
世田谷区立用賀中学校
校長 毛利慎治

新しい年のスタートを迎えて 一様々な節目から学べることー

ようがの学び舎 世田谷区立用賀中学校 校長 毛利慎治

令和7年のスタートを迎え、保護者の皆様、地域の皆様には昨年一年間の温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。本年も、用賀中学校の生徒一人ひとりの成長を見守りながら、地域と共に歩む教育活動を推進してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

『戦後80年、阪神・淡路大震災から30年、そして能登半島地震から1年』

年末年始のニュースや新聞ではこの言葉が多く見られました。今年は、戦後80年、阪神大震災から30年、そして能登半島地震から1年という節目の年です。昨年の能登半島地震では、全国から多くの支援が寄せられ、被災地の皆様が一丸となって復興に向けて努力される姿に多くの感動を感じました。能登半島は、私たち3年生も修学旅行で訪れた石川県の一部であり、直接能登地方へは行けませんでしたが、金沢市内で地元の方々から温かく歓迎していただき、「石川県は元気です。いつでもおいでください」というお言葉をいただいたことが心に残っています。そのような優しさや地域の結束力が、困難を乗り越える力になっていると感じました。生徒にとっても現地で触れた「心の温かさ」から、「人の心の痛みがわかる人間になろう」という精神を学べたと確信しています。

また、阪神・淡路大震災から30年が経過し、震災を直接知らない世代が増えています。この震災では死者6,434人、住宅被害は63万棟と、多くの命が失われ、多くの方々の生活が一変しました。その後、日本では防災意識と取り組みが大きく進みました。本校でも、災害への備えを学ぶために3学期の始業式で集団下校訓練（震度5強以上の時は保護者等の引き取りとなります）を実施しました。この訓練を通じて、子どもたちが「自分や周りの命を守る行動」を具体的に考え、備える力を身につけることを目指しています。
(二次元コード：阪神・淡路大震災特集サイト)



さらに、平成7年の阪神・淡路大震災は「ボランティア元年」とも呼ばれ、災害時の支え合いの大切さを広く認識させた出来事でした。用賀の街でも地域の方々が中心となり、防災訓練が実施されています。学校でも防災訓練を通じて子どもたちが命を守る行動を学び、地域と共に災害への備えを進めています。非常用品や避難経路の確認、近隣との交流を深めることで、助け合える環境を築きましょう。今年も、地域の皆様と協力しながら、安心で安全な街づくりのお役に立てるよう努めてまいります。

今年は戦後80年という大きな節目もあります。この日本で戦争があり、多くの犠牲者が出了歴史を私たちは決して忘れてはなりません。戦争を直接体験した世代が少なくなっている今、その記憶と教訓を次世代に引き継ぐ責任があります。平和の大切さは、教科書や授業で学ぶだけでなく、私たち自身が日常の中で感じ、育していくものです。本校でも、平和教育を通じて、子どもたちが平和の尊さを自分の問題として捉え、行動できる力を育てていきたいと考えています。生徒の皆さん、学習用タブレットでも動画配信を見ることができます。また図書室には多くの資料があります。まずは「知ること」から始めてみてはいかがでしょうか。

1月は、冬休みを終え、新たな目標に向かって歩み出す大切な時期です。学習面では1年間のまとめや次学年に向けた準備を進める時期もあります。2学期の終業式では「3学期は次の学年の0（ゼロ）学期」とお話をしました。明確な目標を立てること、実行できたかを短い期間で振り返ることを繰り返していきましょう。生活面では、冬休み中に乱れがちな生活リズムを整え、規則正しい習慣を取り戻すことが重要です。本校では、子どもたち一人ひとりが自信をもって学びに取り組み、身心ともに健康的な生活を送れるよう、教職員一同で支援してまいります。

また、地域の皆様とのつながりを深めるため、地域の方々との交流や活動を通じて、子どもたちが社会の一員としての責任や役割を実感し、広い視野を育む機会を提供していきます。保護者の皆様には、引き続き用賀中学校の教育活動へのご理解とご協力を願い申し上げます。令和7年が保護者の皆様、地域の皆様、そして用賀中学校生徒にとって、平和で平穏な一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。生徒たちが笑顔で充実した毎日を過ごせるよう、学校としても全力でサポートしてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

受験・受検を応援！面接練習のふりかえり

11月から12月にかけて、校長先生と副校長先生とで、3年生の面接練習を行いました。高校受験／受検では面接の予定がない生徒も、これからさまざまな機会に面接の機会があるだろうと思います。また、用賀中学校での学校生活をみずから振り返り、さらに未来への展望を言葉にするというのは、生徒のみなさんにとって意義のあることだと思います。

質問内容は生徒によって異なる部分もありましたが、次のことはどの生徒にも聞くようにしました。

(イ) 「先行き不透明な時代（VUCAとよばれる時代）に必要なことは何だと思いますか？」

(ロ) 「その理由や、獲得・実行のためにどうすればよいと思いますか？」

また校長先生からは終業式で、この面接練習についてのお話があり、これらも聞いたとのことでした。

(ハ) 「用賀中学校はどんな学校でしたか？」

(ニ) 「今、1, 2年生に伝えたいことは何ですか？」

(イ) は、割合多くあった答えは「計画性」と「臨機応変」でした。(ロ) の理由としては、先に何があるかわからないからこそ、事前に準備を十分にしておく。その準備があるからこそ、「この手がだめなら、あの手でいこう。」といった臨機応変さも発揮できるのだということでした。他にも生徒によりさまざまな回答と理由がありました。「人との信頼」と答えた生徒はこれまでの人生でも人から支えられ、人を支えて困難を乗り切ってきた経験をもとにして話しました。また、「受け入れる力」という答えも印象的でした。その理由を話す中で、この状況をどうにかしようというエネルギーも大切ですが、一方で「今どうなっているのだろう、この状況を受け入れよう」と静かに察知する能力も大事だと思うと話す姿からは、落ち着きに満ちた力を感じました。

(ハ) は終業式のお話の中では、「明るい」「温かい」「先生との距離が近い」という答えが大変多かったとのことでした。これは今回行った「学校関係者評価アンケート」でも同様の結果で、日ごろから生徒のみさんが先生方に信頼を寄せていることを嬉しく思います。

(ニ) は多くの答えが「今（1, 2年生）のうちにもっと勉強を！」のことでした。きっと、もし昔の自分に話しかけられるのなら「もっとちゃんと／うまく勉強しようよ！」と言いたいというのが、今の3年生の気持ちなのでしょう。

以下に生徒の皆さんのがふりかえりをいくつか紹介します。読み返し、仲間のものも参考にして、今後の役に立ててもらえた嬉しいです。

○受け答えに焦ってしまい、あまり説得力のないことを言ってしまった。また、質問から少しずれてしまったようなことを言ってしまった。そのため、本番で同じようなことをしまわないように、さまざまな質問についてもっとよく考え、どんなことを話すかを決めるようにしたいと思った。

○ありがたい言葉をいただくことができ、嬉しく思います。この言葉を胸に刻み原動力にし、邁進していきたいです。

○自分では気づけなかったことを指摘してもらえて気づくことができた。

○自分は面接がとても苦手なのだとわかりました。面接練習をした上で、自分の癖や、直さなければならない部分がわかりました。特に、言葉があやふやになってしまったり、正しい言葉遣いができていなかったり、体が前後に揺れていたりと、多くありました。なので、次に面接をする時はその直さなければならない部分を全て直して、完璧な状態で挑みたいと思います。

○ちゃんと内容をはっきりさせる。声を大きく、目線、姿勢。

○姿勢や所作などに気を使うことができた。しかし、受け答えをハキハキとすることができなかった。また、声も小さかったと思う。これからは、深掘りした質問にもすぐ答えられるよう、準備していきたい。また、校長先生からの「今未来手帳の活用について、もっと自信をもっていい」という言葉が印象に残った。今まで、あまり気にしていなかった部分も自分の強みになるということを知ることができたので、その部分も具体的に考えたい。

○思っているより緊張せずに、質問に対しての適切な答えを言ったと思う。改善点は、考えているときや、話し始めるときに、えっと、えー、などを言ってしまうところと、志望理由に「勉強のことについて」を入れていなかったので、これからはこの部分を改善していきたい。

○普段からいろいろなことに対して自分で考える癖をつけていたおかげで、面接で聞かれた質問に対してもすぐに自分の考えを出すことができたので良かった。話し始めたのはいいもののどうやってまとめるかを考えおらず、まとめが少し抽象的になってしまることがあったので、より具体的に話をできるようにしたい。

○落ち着いていると褒めていただけたので、態度や回答はこのまま続けていく。「そうですね」を無意識のうちにたくさん使ってしまうので意識して反応をするようにする。高校受験に向けて自分のペースで努力し、これからの時代に向けて判断力と行動力を養っていくようにしたい。

令和 6 年度中学生の税についての作文 優秀作品

3年生は1学期に、玉川税務署の方に来ていただき「租税教室」を受講しました。税について専門の方からさまざまな情報を得たり、考えたりしました。その後、夏休みには、玉川納税貯蓄組合連合会が主催する「税についての作文」に取り組み、その中で大変優れた賞もいただきました。こちらで紹介いたします。

令和 6 年度中学生の税についての作文 優秀作品 世田谷区長賞

『幸せな納税者』 世田谷区立用賀中学校 第3学年 表彰生徒



私たちが税と聞いて一番身近に感じるのは消費税だ。今まで何気なく納めてきた消費税だが、働けない人から収入源のない中学生の私でも払わなければいけないのは、損しているだけなのではないかと感じる。しかし、税として集められたお金は健康や生活を守るために社会保障費や道路や建物の整備のための公共事業費、また教育や科学技術発展のための文教及び科学振興費など、私たちが平等で充実した暮らしができるように使われているものばかりである。

それが分かっていながらも、「なぜ何でもかんでも税を取る必要があるの。」「なぜ、消費税を8%から10%へ上げる必要があったの。」と疑問に思ってしまう。もし税を取る仕組みが全くなかったら、日本はどうなってしまうのだろうか。

高額な医療費は全額負担になったり、学校の建設や教科書の無料配布がなくなったり、学校に通えなくなる人が出てきたり、道路や橋、線路なども整備されず、壊れたまま使えなくなったりする。そのような生活を想像すると、私は絶対に暮らせないと思ってしまう。

南太平洋に浮かぶ小さな島国のナウル共和国には、税金が存在しない。かつてリン鉱石の採掘で栄えたため税金が存在せず、20世紀末ごろまでは医療や教育が無償で、結婚時には新居がプレゼントされ、全年齢対象に年金配布など、楽園のような国だった。

しかし、21世紀に入った頃からリン鉱石の枯渇が進み、経済が崩壊し、現在では国民の失業率が90%で、そもそも働いたことがない人がほとんどの国になってしまった。税金を取らず、楽園のようだったことで、経済の急なアクシデントに耐えられず、されるがままになってしまったのだと思った。

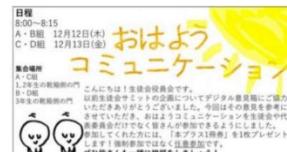
ところで日本には今、プライマリーバランスをゼロにしようという働きがある。プライマリーバランスとは、社会保障や公共事業をはじめ、様々な行政サービスを提供するための政策的経費を税収等で賄えているかを示す指標だ。今、日本は政策的経費を国債発行し、借金で賄って赤字の状態にある。プライマリーバランスが赤字の状態が続ければ、最終的には国家予算が組めなくなり、ナウル共和国のように国が破綻するほど危機に追いやられるかもしれない。そのような日本が想像つくだろうか。私は今の幸せな生活を続けたいから、そのようには絶対になってほしくない。

税ありきの生活をしていることや、プライマリーバランスをゼロにしようという政策があるからこそ、多くの種類の税があったり増税の必要があったりするとわかり、最初の疑問も晴れた。納税は負担だと考える人も少なくないと思うが、私たちがどれだけ税に支えられて幸せな生活ができているのかを考えてほしい。だからこそ、私は税に感謝しつつ、一人の納税者として暮らしたいと思った。

※表彰生徒はもう1名おりますが、現在作品（文章）を取り寄せてています。

手元に来ましたら、次号掲載へと進めていくようと考えております。

☆ホームページの写真より☆





令和7年、明けましておめでとうございます。始業式は8日ですので松の内を過ぎてしまうのですが、どうぞご容赦ください。近くにあります参拝場所にも「謹賀新年」と飾られていました。「つつしんで（謹）、あらたなどし（新年）を、およろこびいたします（賀）」ということですね。今年もまた、この「つつしんで」という言葉にあらためて思い至る感じがしております。皆様や、そのまわりの皆様にとりまして、よい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて本号にはコラム欄を設けさせていただき、ちょっとトリッキーな題をつけてみました。冬休み明けに、頭をやわらかくして読んでいただければ幸いです。

「キャリパ」、これは「キャリア・パスポート」のことです。生徒が2学期末に家庭へ持ち帰りました。ご家庭でご覧いただけたと思います。各ご家庭での健全育成へのご協力、いつもありがとうございます。このキャリア・パスポートには、行事後の振り返りや、各学期の振り返りを「生徒自ら」が行い、言葉に（言語化）してほしいという願いが込められています。学校からや、家庭からのメッセージ欄もあります。この大きな特徴は、スタートが生徒自身の努力やそれに対する気づきで、それを学校が、家庭が、それぞれに指導者や経験者、年長者として価値づけるというところです。

私達教員の多くや保護者の皆様、つまり今の大人の方の多くは中学生のころ、学校では「通知表」が自身の学習成果・評価のほとんど全てだったのではないかと、振り返って思います。それはスタートが先生（学校）で、生徒（当時の自身）は、かつては相対評価（上位から何人が成績上で…）で、「ひたすら頑張ったあとに、成績がつくのをドキドキと待っている」ものでした。そのようにして、他者と競い合いながら力を高め、与えられる事を、高精度に、皆でおこなっていくことで、個々の力や日本全体の力が、この広い世界の中で抜きん出る存在となったのが、「これまでの日本の在り方」ではなかったかと思っています。

そこからさらに令和7年へ、時代は大変進みました。ご存じの通りインターネット等の通信環境はもはや水や電気のように、身の回りになくてはならないものとなり、知ろうと思えば周りの大人の教えを待っていないでも高度なことや専門的なこともすぐに知ることができるようになりました。さらに人工知能、いわゆるAIも、日々、まさに今この瞬間もきっと、目覚ましく進歩しています。主体性が大変重要な時代です。

そんな時こそ、キャリア・パスポートの出番です！

「キャリア・パスポートそのもの」と、「キャリア・パスポート的思考」が大切です。易きに流されやすい自分は今、「なりたい自分」への方向にちゃんと向いているか、その道筋のどのあたりにいるのか、次の達成は何で、そのために何をすべきなのか。生徒の皆さんには、そういったことを常に考え続け、そのツールの一つとしてキャリア・パスポートを記録し、時折確認し、日々キャリア・パスポート的思考を磨き、確実に身に付けていってほしいと思っています。さらに、用賀中学校では学年に応じて「手帳の活用」も行っていますので、こちらも日々の計画、記録、振り返りによりよく活用していくよう、さらに指導を進めてまいります。

次は「フリカ」です。「振り返り」のことです。手帳でも自主的に振り返りを行えますが、生徒は一日に様々な場面を体験します。授業は大体の日に一日6つあります。中には好みや得意・不得意もあることでしょう。そんな中で「学習者として在りたい自分像」を目標として設定し、それに向けて、この1時間にどう取り組めたか、学習内容や自身の成長に関する気付きは何か、そういったことを時間ごとに振り返ることで、科目を超えた、一個人総体としての「学びに向かう力」を自ら確認し、より高めていけます。各科目で「振り返りカード(シート)」も活用を進めており、意図的に記録内容を紹介するなど、活用を進めながら改良も行っているところです。

わかりやすく、「キャリパ」が道案内アプリ、「フリカ」が乗車・記録アプリと考えてみてください。

よりよい使い方の指導を重ね、未来（ミライ）の栄光駅まで、日々近づけていこうと思います。

ご家庭でのキャリア・パスポートの確認や日頃の励まし、地域での「ボランティア参加証」なども、大変に大きな力になります。3学期もどうぞ、さまざまご理解・ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

<1月の予定>

8日(水)	始業式 集団下校訓練(11:15~訓練としての下校開始予定)	16~19日	区作品展
16~18日	学校公開	18日(土)土曜授業日	せたがや学びのメッセ(のため、午前授業)
31日(金)	2年生 校外学習 ☆部活動体験も行います。ホームページからご確認ください →		

用賀中 HP



<入試関連>	9~16日	都立推薦入試出願	15日(水)	私立推薦出願始	22日(水)	私立推薦入試始
	25日(土)	私立一般出願始	26, 27日	都立推薦入試日	30~2/5	都立一次出願 31(金)都立推薦入試発表

<新入学予定者関連> 16~18日 学校公開(新入学予定の方も参観できます)

18日(土)標準服採寸会(用賀中 体育館にて)

☆2月21日(金)14:30~15:20、新入生保護者説明会 ※入学予定の方は必ずご参加ください。